

2007年4月19日

各 位

会社名	三菱商事株式会社
代表者名	代表取締役社長 小島 順彦
コード番号	8058
本社所在地	東京都千代田区丸の内 2丁目3番1号
問合せ先	広報部報道チームリーダー 内村 雄介(Tel03-3210-2172)

### サハリンエナジー社の株式譲渡実行についてのお知らせ

三菱商事は、モスクワ時間4月18日、ロシア連邦モスクワ市内において、ロシアのガスプロム社との間でロイヤルダッチシェル、三井物産との共同出資会社サハリンエナジー社(SE社)株式の一部に係わる譲渡契約を締結し、同日、株式譲渡を実行致しました。同株式譲渡契約に従い、SE社株主構成は、ガスプロム 50%+1 株、シェル 27.5%-1 株、三井物産 12.5%、三菱商事 10%の4株主体制となり、本株式譲渡を以ってSE社は当社の持分法適用会社ではなくなります。当社は、本株式譲渡に係わる議定書(Protocol)を2006年12月21日に締結しており、今般同議定書に基づく正式な譲渡契約締結に到ったものです。株式譲渡額は、総額74億5千万ドル、当社分14億9千万ドルとなりますが、損益へのインパクトは軽微です。

今後、SE社新体制の下、ガスプロム社を含む4株主は、一丸となって、既にご購入を確約いただいている日本・韓国及び北米西海岸の顧客に対し、スケジュール通りLNGを供給すべく、サハリンⅡプロジェクトの完工に向け全力を挙げて取り組みます。また、ガスプロム社を含む4株主は、サハリンⅡプロジェクトを中心とする将来的な発展に、今後共同で取り組む枠組みについても合意致しました。

更に、ロシア連邦天然資源省は、4月16日に改訂環境対策計画書を承認しました。同計画書はガスプロム社を含む株主4社の提言事項を全て反映し、SE社が準備したものであり、サハリン島の魚類、動植物の生態系保全の計画をも含んでおります。

当社は、ガスプロム社のSE社正式参入を歓迎すると共に、これら一連の合意によりLNG早期立ち上げに向けた体制が整ったものと考えております。

以上

## 【参考資料】

### サハリンⅡプロジェクトの概要

ロシア・サハリン島沖は、約 450 億バレル相当(石油換算)の資源を有するといわれる新たな世界規模の石油・ガス開発地域です。サハリンⅡは世界最大の石油・ガス複合プロジェクトであり、約 40 億バレル相当(石油換算)の資源を有します。

サハリンⅡプロジェクトは現在、日量約 8 万バレルの原油(夏季半年間)を生産しています。現在、第二段階開発を行なっており、建設完了後、日量約 17 万バレル(通年生産)の原油及び年間 960 万トンの液化天然ガス(LNG)を生産する予定です。尚、原油通年生産開始は 2007 年冬、LNG 出荷開始は 2008 年夏頃を予定しています。

この第二フェーズの工事進捗率は現時点で約 80% あります。建設には 1 万 7 千人以上を雇用しており、その約 7 割はロシア国籍です。生産を予定している LNG は、アジア太平洋地区の顧客に販売する予定です。

サハリンⅡプロジェクトは生産物分与協定(PSA)に基づき開発が行われており、現状 3 株主がプロジェクトの建設資金を調達し、開発リスクを負い、原油及び天然ガスの販売収入から資金を回収する仕組みとなっています。また、2006 年 12 月までに、約 6 億米ドルをロイヤリティーや税として、ロシア政府に支払っています。

サハリンⅡプロジェクトの工事内容は、以下の通りです。

- モリクパック・プラットフォーム(PA-A、1999 年以来、夏季半年間原油生産中)、新たに建設・設置する PA-B 及び Lun-A プラットフォームや総計約 300 キロメートルの海底パイプラインを含む洋上生産設備
- ピルトン・アストフスコエ鉱区及びルンスコエ鉱区からの天然ガス及び原油を処理するための陸上処理設備
- サハリン島南端まで約 800 キロメートルにわたる二本の陸上石油及びガス・パイプライン
- 通年操業可能な原油輸出設備
- ロシア初の LNG プラント及び付随する輸出設備
- 道路、橋、鉄道、港、空港および病院等のサハリン島内インフラの改良

以上